

普通に生きる 上映会感想文

No. \_\_\_\_\_

私が思っていた事、向用者の気持ち、両親の気持ちが少しは、解ったような気がします。  
している。17もらっている。と言う気持ちが出て来ないように共に成長していきたいと思ってる。  
・私生活では、普通の子供みたいになって欲しい。か、普通に生きてほしいとかの話を  
聞きます。その時に、その子が普通だと思えば、それは普通。周りに流されてその子の  
個性をとじめるのは、やめてほしい。外見も普通のように見えても内面も苦しんで  
いるかもしれないよ。だから笑顔で生きているのが、その子にとっての普通ではと  
話した事を思い出しました。仕事に慣れていって個人の個性をとじめるなように  
しないと、いけないなとあらためて思いました。

障害者の施設を建てたり何か行動するのは、親の会が多いのかな  
と思った。

吸引をする時？ 看護師さんがチューブをコンセントで持っていたことに驚いた。  
吸引にもいろいろやり方があるのだと知った。

学校でスヌーズレインの見学をしたことがあったので、出張を嬉しかつた。他にもスヌーズ  
レインを行っているところがあるのだと知った。

家の中の階段にイスが付いていて自動で動いたことに驚いた。あんな機械は  
初めて見た。住宅改修？ など費用のサポートはあるのか少し気にはなった。

生活介護施設をいくつか見たが、どこだけ重度でも、何かもの作りをしてもらう。  
生産活動をしてもらうという考えのところが多いように感じた。それは母にも  
あった通り生産活動 = 社会貢献だ。生産活動が主でよい = 社会貢献  
が主という考えがあるからなのだと思う。でも、<sup>「</sup>費<sup>」</sup>にあつたように、「生産  
的<sup>」</sup>な活動の利も人との関わりを増やすことでその人の持つ力、鬼力を引き出す  
、「笑顔」を見てもらうのがいいはずだ。幸せな気持ちにならなければならぬ。そ  
れも「生産」になる、つまり社会貢献になっている。という考え方は、素晴らしい考  
え方だと思う。

上手なやり方をしてもらう人だけと関係するのはよく、下手なやり方（<sup>サポート</sup>新人さんとか）と  
も関わることで、自分で飲み込むことをやめようとも大切と聞いて。それだけ  
食事介助も上手じゃなくて利用者さんにと、それは嫌かもしれないけれど、一生  
懸命やることが大切なのだと思う。

育児は非協力的な親が多いのかと思、ていたが意外と父、親が協力的  
だ驚いた。

「子どもが小さいとき、みんな死にたいと思、ていた」と聞いて、やはり一度は  
思、たことがあるのだと思う。まだまだ「障害がある」ということは受け入れ  
られにくい社会だと思、うし、自分の子にも障害があつたとしたら、これから学校  
などで勉強していても、やはり「何でうちの子が」と思、ってしまうような気がする  
と思、ってしまう。周りと比べて違うからいいかいいかと思、ってしまうことは  
上からでは、思、っているし、差別して思、っている方がよく思、うけれど、  
難しい問題だと思、う。

利用者には寄り添って利用者のためと思、うべき、思、っていることも、よくよく思、えよう  
自分の都合に当てはめよう、思、ったことがあつたかも知れないと思、う。反省した  
自分たちがやりやすいようにする必要があると思、うが、それだけ利用者の思、い、気持ちなどを  
を無視してしまうのは間違、いだと思、う。自分も気を付けて思、う。

自立の裏には依存があって、依存することによって自立、誰でも何か、誰かに依存しているから自立できているのかなと思いました。

映画のナレーションで、「どんな支援者のケアでも受けられるように...」とあって、ご本人が自立するため、より良い暮らしをするためには「うまく依存すること」が大切なことかなと思いました。

私たち、支援者側としては、「うまく依存」してもらえるように、ご本人やご家族との関係づくりが大切かなと思います。

「普通に生きる」、食べて、寝て、お風呂に入って。少し形は違うけれど障害の有無に関係なくみんな同じことだと感じました。

~~「普通」は~~

障害とともにある方たちが「普通に生きる」ために、自分も何かできないかな、と思ったことが自分の原点で、それを乗り越えることができたかなと思います。

自分にできることは何なのか、しっかり考えながら支援に入りたいと思います。

# 「普通に生きる」を見て

No. \_\_\_\_\_

今日、生活介護事業所「ごらーと」に通っている方のビデオを見ました。この施設の法人理念が「普通に生きる」ということで、人によって普通というのは変わってくるが、重度の障がりのある子たちにとって普通に生きるとはどういうことなのか、考えるきっかけになりました。彼等らは私たちと同じように気持ちをもって、意思も伝えたりできる。その意思をこちら側からみ取って言葉にしてあげるのか、大切なのかなと感じました。ビデオにあった小澤美和さん(20)の方の成人式を施設で行った時、お母さんが挨拶をしていた横で美和さんはそのマイクを取ろうとしていた。私はその映像を見た時に「マイクが気になるのかな?」と思ったのですが、最後に聞いた貞末さんの説明で自分が話したいという思いの表れではなかったのかな、ということでした。私はなるほどと思いました。人の行動にはちゃんと自分の思いがあって、それを言葉の変わりに行動で示すというのは、気づかないだけで普段聞かれている人たちもしているのかなと思いました。なので、これからは相手の行動をよく見て何を求めているのかを少しでも考えたいかなと思いました。

普通に生きているの映画鑑賞をして私が一番印象に残っている場面は施設を建てる場面です。障がいというだけで、山付近に施設を建てる案が出されたり、街中に施設を建てようと思うと、近隣住民から反対の意見がたくさん出されたり施設を自分たちが建てたい場所に建てられない現状にあるという二つを知りました。

私が見たいといければいい考え方をされていく親御さん達に、安心して地域で子どもさんが生活できるのだという二つを伝えていくためにも、親御さんたちが預けることも大丈夫だと思っ、てもらえる施設づくりも、またな様なら一歩にも答えられるような施設を作、ていかたいといければいいのだという二つを考えさせられました。

たくさんの方々に障がい者の二つを知、てもらうためにも、自分たちから何か発信したり、外に出る間近に障害者の方の存在を知、てもらうだけでなく、障がい者の方々に対する考え方が少しでも変わるのではいいかと私は思いました。

普通に生活の上で必要となる知識や技能は、  
もろもろの分野の知識。障がいのある人の生活に  
見通しや良い機会を掴むこと。

・障がいに関し地域での生活が困難な人の悩み問題を  
知り、個々の苦悩を解決する。

・障がいに関し地域での生活に問題を抱えている人、個々の  
ニーズに基づいた支援を行う。

・社会に対して、障がいに関し地域での生活の問題を  
個々の理解と受け入れを求めて情報発信を行うこと。  
個々の個々の基本的な人権を守り、その幸福追求と自己実現及び  
自立生活を目指す。

・従って個々が自立の場・日中活動を行う場と必要とする  
資源が求められ、その支援を行う。

社会の形、望む生活は一人一人異なる。

一人一人も満足な生活は必要で、一人一人の個性

一人一人の作る個性は、その個性がある。知識や技能  
その個性は一人一人の生活の質を高める仕事である。

一人一人の個性を大切にし、一人一人の個性を支援を行うこと。  
一人一人の個性を大切にし、一人一人の個性を支援すること。  
一人一人の個性を大切にし、一人一人の個性を支援すること。

社会、子どもたちが安心して学べる機会を、その成長  
への利用も、その親が子どもの人生を明るく  
送るよう願うことである。



今回、映画「普通に生きる」を観せていただき、印象的だったのは、映画に登場してくる方々の笑顔でした。その笑顔でいやされる人は多勢いると思うし、この人達の存在には、大きな意味があるのだと思いました。

障がいをもつ方々の親御さんが福祉の受け手から担い手となり、意欲的な活動によって施設やヘルパー養成、ケアホームへと広がっていき姿も心に残りました。中には、議員として活動し、福祉の現状を知らない政治家や、地域の人々に働きかけている方も居て、福祉の現状を家族などだけで抱えこむのではなく、周りに理解してもらおうということが本当に重要なのだと感じました。

この映画の題にもある「普通」ということについても深く考えさせられました。よく聞く「普通」というのは、大多数の人が持つ考えに合わせられていると思います。周りの人間、環境によっても異なってくるので、正直、あってないようなものなのかなと感じました。

普通に生きる ~自立をめざして~

静岡県内の富士・富士宮圏域に在住する在宅の重症心身障害者が通う『でら〜と』の記録映画を見た。撮影時間150時間におよぶと聞いた。

映画を見て 素直によかったなあと感じた。

自分が福祉の仕事に就いた頃のことを思い出していた。今から30年ほど前のことである。京都市内ではじめつくられた療養施設(身体障害者の入所施設)に、当時、養護学校高等部を卒業してすぐに入所された方が3名ほどおられた。開所したばかりの施設と卒業後の進路として選ばれたのである。

学校を卒業したあとの選択次第は、今でもそう多くはない。

親にとつては、障がいとつては子どもの行く末をいつも案じておられる。でら〜とでは、成人のお祝いをとつても大層にさめている。本人も誇らしいが親情をみせておられた。本人にとつても、親にとつても大きな節目になる。

障がいを持つた人たちは、かわいそうな人や不幸な人ではない。しかし、そうした見方や言い方を否定しない社会がまだ存在している。普通に生きるとは...生産性をあげること 効率を重視すること 利益を生むこと。新しいモノをつくること...と実現することなのかな...  
ただそこにいることだけで価値があると  
生きているだけで可ばらしいと教えることも。

仕事をする気持ちも初心に立ち戻って考えることが必要だと教えるくれた。



## 「普通に生きる」 感想文

支援学校を卒業し選択しか 少くなく現状の中  
親の会を作り理想の事業所「でら〜と」を立ち上げ  
いくつもの困難や壁を乗り越え行政を動した想いは  
清いハートだと感じた。

この作品のテーマである「普通に生きる」とは何か?

その人が いろんな人の力を借りて その地域で  
よからしく生きる事なのかなと感じました。

又「普通」とは何かを普通に生きる事か難しい、そんな  
時代の中に あって健常者でも普通に生きて いない  
人も 99% いるのでは無いただろうか?

改めて普通とは何かを考えさせる映画だと  
感じました。

映画「普通に生きる」を鑑賞したのは、まぶろ創立5周年イベント以来、2回目でした。2回目という事もあり、今回は落ちついて全体と部分部分を観る事が出来た様に思います。

前回は、そこまで気に留めていなかったのですが、今回はタイトルの「普通」とはそもそも何なのか？という点が気になり、この疑問の答えを考えながら、映画を観ていました。

2019年現在でも、障がい者にと、て「生きやすい世の中か？」と尋ねると、すぐ「首を縦に振る人はほとんどいない」と思います。

映画の中の生活介護事業所での開業までの経緯と現在（撮影時）を見ていて、日頃の支援で顔を合わせる重症心身障がいの利用者さん達を度々、思い出しました。「独りでは食事を食べられない」、「足の歩行が出来ない」、「人工呼吸器を使用しないと呼吸が止まってしまう」など、健常者が日頃、特に深く考えずに行っている事が「容易ではない」という現実に対して、本人も心身ともにともしんどいと思いますし、一緒に暮らす家族にとっては、本人とはまた違、夫大変な思いを払っているんだろうな、と思いました。

映画の中の二十才の成人式を迎えられた方々の姿を見てみると、病負・障がいと闘いながら成長してきた二十年という時間が、身となり骨となり、彼らを支えているように思えましたし、彼らの表情からもたくましさを感じられました。

## 普通に生きる観て

まーぶる五周年記念に一度観る機会がありまして、今回、二回目の鑑賞になりました。

自分の家族に重症心身障害者がいたら、自分自身は家族としてどう関わっていくのかなと考えながら拝見させていただきました。それも漠然としたもので想像の範疇でしかありませんが 鑑賞しながらそれがとてもリアルに感じられました。

また、ご家族が出生当時から現在までのことを回想されるなかで現実をなかなか受け入れられずに日々葛藤の中、生きてこられたのを見て、自分が現在、関わっている利用者さん家族にも それぞれに壮絶なドラマがあったのだろうと思いながら観ていました。

地域で協力しながら、保護者自身が制度から根本的に変えていこうといった積極的に取り組む様子が生き生きと描かれていたと思います。

鑑賞後に貞末さんが、以前鑑賞された方の感想のエピソードで、生きていくうえでの選択肢が増えていくことがたいせつと言われたのが印象的でした。この映画を観たあとはそうなっていくとポジティブに感じられ、どんな障害があっても、それぞれがやりたいことが普通にできるような社会になればと思いました。

自分自身もこれからの支援をしていくうえで、利用者一人一人にはとても大きな可能性があり自己実現を願っていて、笑顔一つでまわりを幸せにできるような大きな力を持っています。その可能性がより広がるよう微力ながら少しでも支えられたらなと思いました。

4/3(水) 18:30-20:35

# 日映画「普通に生きる」

No.

日映画を見終りて思ったのは、重度の障がいをもつ家族の様々な困難や大変事があるとしても諦めず、自分達の子も達が、地域や社会の中で暮らしていけるように親達も、居場所を作る為に、自分達に合ったニーズ、制度や施設を作っていく姿は素晴らしいと思った。重度の障がいをもつ方々の介護を中心に作るのか、家族が中心となり、社会が中心となり、生活の場が地域に変えていくことが大切なんだろうと思いました。

日映画の中にも書かれていた昔は施設や病院で生活と限られた選択肢しかなかったのか、通所という選択肢が増えることで、家族の負担が減り、社会との関わりが増えることになる。

重度の障がいをもつ家族は世間では「生活大変さがある」と思われるが、生活は自分達が行っている事は普通の生活をしているから、しんどさや大変さはないと書かれて、映画を見ていると、喜怒哀楽のある子ども達の姿が長情があり、自分にとって、普通に生きる、生活するとはなんだろうと考えることができました。

支援でも本人の思う、望む生活を支えるのが支援者としての役割だから、年々支援者中心の支援になっていく、本人の思いの生活が実現していない事も多いとしている為、改めて自分自身の支援はどんなのかを見つめ直そうと思いました。

日映画に出てきた「さくら」に1回見に行きたいと思いました。